

学術研究・調査活動の名称：豊後大野ジオパークの地域資源を活用した福祉教育プログラムの開発

代表申請者（所属）：波名城 翔（国立大学法人琉球大学人文社会学部）

研究概要：

【研究の目的】

本研究では、豊後大野ジオパークの豊かな自然・地形・文化資源を教材とし、学校および豊後大野市社会福祉協議会（以下、社協）と連携して新たな福祉教育プログラムを開発・検討した。以下、その概要を示す。

【研究内容と結果】

1. 文献・先行事例の整理

ジオパーク教育、福祉教育、ユニバーサルデザイン（UD）教育に関する国内外の文献・先行事例を整理し、観光立国推進基本法改正、障害者差別解消法施行、学習指導要領における福祉教育の位置づけなど制度的背景を踏まえて、教育理念、評価方法、運営上の制約を明らかにした。

2. 小学生向けプログラムの把握

社協の放課後チャレンジ教室担当職員への半構造化インタビューを実施し、小学生を対象とする既存プログラムの内容や運営上の課題を把握した。

3. フィールド体験調査（2025年10月）

社協職員、ジオガイド、高齢者3名とともに原尻の滝でフィールド体験を行った。高齢者が地形観察を楽しみつつ、地域の祭りや伝統文化にまつわる回想談を語り合う姿が確認された。当初は高齢者の“ジオパークを楽しむ様子”を撮影し、「貧困的な福祉感」から「年を重ねても楽しい人生を送る」への転換を検討していたが、

- ・ジオガイドによる専門的解説
- ・高齢者による地域体験談

という二つの視点から学べる福祉教育の可能性が示唆された。

4. 主要ジオサイトのバリアフリー現地調査

ミュージアム、稲積水中鍾乳洞、昭和タイムスリップロマン座など主要ジオサイトのバリアフリー状況を調査。屋内施設はスロープや手すりが整備され概ね利用可能である一方、屋外遊歩道には急傾斜や未舗装路が散在し、段階的なプログラム設計と環境改善の必要性が明らかになった。

5. 小中高校への福祉教育に関するアンケート（2025年12月～2026年1月）

市内の小中高校にアンケート調査を行い13校から回答を得た。その結果、92%が何らかの福祉教育を実施済みと回答。テーマは「いのちの教育・いじめ防止」「障害理解」「防災と要配慮者支援」など多岐にわたったが、職員研修時間の不足、教材不足、テーマの体系化の難しさが共通課題として浮き彫りになった。

【まとめ】

ジオパークを活用した福祉教育により、ジオパークの歴史や地形知識を学びに加えて、高齢者の実体験を共有することで学びが深化し、高齢者自身にも生きがいづくりや回想法としての効果が期待できることが示唆された。今後は、学校と連携した実践的なプログラムを展開し、地域に根ざしたジオパークづくりを進める必要が求められる。

(高齢者のジオパーク体験の様子)

